

# 道徳だより

テーマ：第28回京都市道徳教育研究大会 まとめ



令和5年9月  
京都市立道徳教育研究会  
広報部  
(第4号)

## 「道徳科の本質に即した学びとはどのようなものか」—心理学と教育学の知見から— 京都教育大学准教授 神代 健彦先生による講演

初めに、道徳とは、どんな時間なのか。道徳は「不道徳になってもいい時間」で、変わることが必ずしもよいとは限らない。できたことができなくなったこともあるかもしれない。



道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める時間として道徳の時間を大切に取り組んでいきたいと考えた。

子どもは有能な学習者ではあるが、大人が思うようには学ばない、苦手なことはしない。認知資源が足りないため、難しいとできない。だからこそ、教材をあらかじめ耕しておくことで、子どもが「面白そう、考えたい」と出会う場所になってほしい。



子どもにどんなことを考えてほしいのか、1時間のねらいを明確にもち、学習展開をすることが大事である。自分事として考えるための教材のとの出会いはとても大切であり、教材は、学びを支えるものであると考えた。

### 道徳性発達の心理学—指導過程を吟味するヒント—

- ・発達の理解の難しい事柄を不用意に与えると、「よく分からないので鵜呑みにする/定型的な発言でごまかす」という学習態度導く（結果としての「押し付け」）。
- ・発達段階に対して内容の程度が低すぎる（簡単すぎる）と、「道徳科は分かり切ったことの話し合いでつまらない」となる。
- ・「一人ではできないが、誰かの助けがあればできる・わかる」「頭一つ分の背伸び」を念頭に、適度な認知的負荷の学習を組織することが道徳性発達を促す。
- ・行動面の変化を拙速に求めない。
- ・「みんなと一緒に、考えつつ生きる」子どもの育成へ。



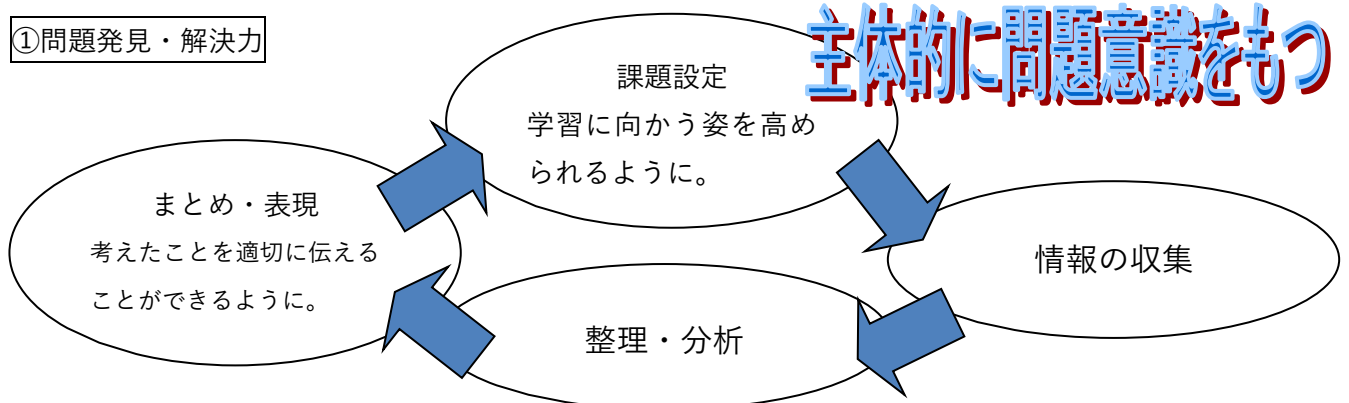
これまでの生活経験や両親から教わったことなどをもとに、道徳が大切なのは、ぼんやりと分かっている。コールバーグの道徳性発達段階論からも分かるように、発達段階に応じて、「なぜ大切なのか」「大切なのは分かっているのに、なぜできないのだろう」と、考えたくなる問いかけをすることで、子どもは主体的に思考を始め、「考え、議論する道徳」につながると考えた。

## 分科会 A 「道徳科で育む非認知能力」～子どもたちが主体的に問題意識をもつ授業展開とは～ 太秦小学校 高熊先生による実践発表

非認知能力とは、「生きる土台となる力」「生涯の学びを支える力」といわれ、意欲や態度、感情などの個人の内面に大きく関係している。例えば、忍耐強くやり遂げようとする能力、思いやりをもって接する能力をはじめ、問題解決力・コミュニケーション力、自己肯定感などを含むと定義されている。

そのために育てたい資質・能力として2点挙げている。

### ①問題発見・解決力



主体的に問題意識をもつために、「子ども自らめあてをつくっていく授業展開」「子どもが自ら中心発問をつくっていく授業展開」を意識して授業作りに取り組んだ。導入では、今までの自分の道徳的価値に対する考えや、行いを振り返ります。そして、展開前段で、お話の内容を確認し、お話の登場人物の道徳的価値に対する考えや行いと比べます。そうすることで、自分の道徳的な問題に気付くことができます。それが、自らのめあてにつながっていきます。

### ②コミュニケーション力

子どもが自分たちで中心発問を考えていく授業展開として、「みんなで話し合って考えたいことは何だろう」と投げかけます。一人一人の子どもの考えを聞き取っていき、総括し、話し合って考えたいことを決めます。

子どもが中心となって進めていく授業の難しさとして、子どもの考えを予想することが難しい、めあて・中心発問をつくるのに時間がかかってしまい展開後段に時間がとれないなどの課題が出てきました。しかし、この取組の中で、自分事として問題に向き合うようになってきたり、積極的に授業に参加したり今までの道徳とは違うと感ずることができたりと変容も見られるようになりました。

「チームで支える道徳教育」～学年・職種の垣根を越えて、みんなで創る道徳～  
大原野中学校木下愛実先生による実践発表について

- ①ユニット道徳…関連単元配列表を元に、他の教科授業や行事と関連付けて授業を行う取組
- ②学年交流道徳…学年・職種の垣根を越えて、すべての教職員で生徒の道徳心の育成をする。目的は、様々な立場で生徒に関わっている教師が自分の個性を生かして授業をすることで、生徒の視野を広げ、多面的・多角的な思考を通じて、道徳性を養うためです。
- ③縦割り道徳…各クラスの中で3つに分けて、1～3年生の混合グループをつくり、地域教材を用いて授業を行う。

分科会B 他との関わりの中で、考えを深められる道徳教育～発問検討シートを使った授業づくり～  
 終野小学校 木村先生による実践発表



2年生 「およげないりすさん」 発問検討シート

ひらぎの発問検討シート

教材名(主題名) 「およげないりすさん」(みんな友だち) 内容項目 B-(10) 友情、信頼

ねらい りすを背中に乗せて池を渡っているかめたちの気持ちを考えることを通して、友だちと助け合い、なかよくしていこうとする心情を育てる。

教材分析

登場人物の心情

めあて 「みんなでここにこしてあそぶには どうしたらいいのか考えよう。」

基本発問

ねらいを達成する中心発問 (発問の意図を大切に)

ゆさぶりの発問

問い返しの発問

めあてに直結した 後段の発問

目指したい思考の深まり (児童の反応・ふりかえり)

評価

このシートは、資料分析と略案の役割を1枚で行える優れたものです。「働き方改革」と質の高い授業、そのどちらかが成り立つように、日々アップデート、バージョンアップがなされているそうです。



2年生 「およげないりすさん」 発問の変遷

	事前研修	事前授業(1回目)	事前授業(2回目)
めあて	ともだちについて考えよう。	みんなであそぶには、どうしたらいいのか考えよう。	みんなであそぶには、どうしたらいいのか考えよう。
基本発問①	「りすさんは泳げないからだめ」といった動物たちにはどんな思いがあったのでしょうか。		
基本発問②	「島で遊んでいる動物たちはどんなことを考えているでしょう。」	「少しも楽しくない」と思っている動物たちはどんなことを考えているでしょう。	
中心発問	りすさんをかめさんの背中に乗せてみんなで島に向かっていっているとき、動物たちはどんなことを考えているのでしょうか。		
後段の発問	どんなともだちが、すてきなともだちだと思いますか。 「すてきなともだち」が抽象的すぎる。	みんなであそぶには、どうしたらいいのか。 子どもが戸惑っていた。思考の流れが止まった。指導者が「みんなで楽しく遊ぶ」と言い変えたことで考えられた。	みんなでここにこしてあそぶには、どうしたらいいのか。 「ここにこ」が急に出てきた感じがする。

練る→児童の反応を捉える→分析→練る…をくりかえし、洗練された発問になっています。

「抽象的より、分かりやすい表現にする」「実態に即したもの」「児童に馴染みのあるもの」がキーワードですね。

文責 西陣中央小 保本 貴之